

# 六夕 支那 農城 時報

の磐城丸だけでも一萬四千圓の漁獲をなしてゐる、サンマ漁は吉下盛丸及び本綱當業漁船は北海道釧路の二三十マイル沖合に遠征を試みてゐるが本縣沖合では本月中旬頃まわつてくる豫定であるが今までには江名濱でのす五萬本、小名濱の九萬本を獲てゐるので同海岸の漁業家はいづれもホク／＼ものゝ体で不景氣もここ吹く風かとばかりの活氣を呈してゐる、今は鰹漁は漁獲萬二萬圓以上に上るものの中の作四隻、江名五隻、四倉三隻で中の作の澤助右衛門氏所有竿福丸は二萬四千圓の漁獲で一等に入賞するものを見られてゐる。

福岡縣田川郡川崎村なが二女秋元アサ子(二三)は去る六月中磐崎村大字藤原三井炭礦坑夫野村定治(三〇)が福岡縣の炭礦就職口を探しに行つた時知り合ひ手に手をとつて駆落ちし兩名で石城郡に來り磐崎村藤原三井炭礦坑夫長尾に同棲し定治は先山、アサは後山の共稼ぎをしてゐたが一ヶ月程前からアサは心臓病にかかり働けなくなつたので定治は毎日の如くアサを虐待するやうになつたのでアサは堪へ兼ね始めて實家に駆落ち以來の事情を詳細に認めた手紙を送つたので、實家では平警察署宛で金十五圓を同封して歸宅するやう説諭方を申し込んで來た。平警察署では六日午前アサを呼び出しその旨を告げ故郷に歸るやう説諭した。

礦に來たが、  
親の情けに感激  
今小賣相場も櫻丸の如きは一貫  
目三十五錢を唱へらる前月に比  
し約二錢方の上進を示してゐる  
が一般日用品は更に變動なく保  
合つてゐる。

郎、阿部唯次郎、會田右京、  
松本愛三、河西八十治、小野  
勇、伊藤彌兵衛、鈴木與一、  
鈴木菊太郎、江尻淺之助、小  
齊宗平、小齊兼吉、杉崎佐平  
丸山喜一郎、丸山慶治、齋藤  
鐵太郎、佐藤富重、阿部靜作  
阿部香寧、百澤易興、百澤才  
八郎、志賀盛榮、條塙辰吉、  
志賀徳次郎、草野源三郎、星野  
藤富三郎、加藤次三郎、星野  
庸治、新妻文吾、猪狩菊太郎  
猪狩庄平

